

第17回中国大学生「走近日企・感受日本」 訪日団報告書の刊行にあたって

本報告書は、「走近日企・感受日本」事業の第2弾第7回(通算第17回)訪日団の報告書です。

本事業は、中国人大学生を訪日視察に招待派遣するもので、中国日本商会在会員からの寄付金を原資として、2007年から年に2回実施してきています。今回派遣した17回までで29大学533名の学生に参加をいただきました。

日中関係は、近年、国交正常化後でもっとも厳しい時期を過ごしましたが、1年前の北京でのAPEC会議以降、首脳会談や各界要路の相互訪問が活発に行われ、特に経済関係は大きく改善の道筋が見えるようになりました。

また、日本を訪れる中国人は1年間に空前の500万人に達するほどになっています。

このように人的往来が盛んになる中、将来の中国を担う若者たちに焦点を当て、より深く両国民の相互理解が進むよう充実した交流プログラムを盛り込んだ本派遣事業が今回も成功裏に終了したことを心から喜んでおります。

さて、第17回は、2015年11月24日から12月1日までの8日間、北京大学、北京師範大学、北京理工大学、北京外国語大学、中央音楽学院に中日交流活動ボランティア枠として中央財経大学を加えた6大学から選抜した35名を日本に派遣いたしました。

視察企業は、日本航空羽田整備場(東京)、オムロン太陽工場(京都)、電源開発磯子火力発電所(神奈川)、三井住友銀行(東京)、住友商事(東京)、ホテルニューオータニエコセンター(東京)の6社。この他、同志社大学における日本人大学生との交流、法政大学・王敏教授による講演の聴講、中国大使館の訪問、日比谷松本楼の視察、一泊二日のホームステイ体験など多岐にわたるプログラムを組みました。ホームステイの受入れに協力いただいた企業は17社(アルプス電気、伊藤忠商事、キヤノン、JTB、新日鐵住金、住友商事、全日空、双日、大陽日酸、田辺三菱製薬、テルモ、トヨタ自動車、日本航空、丸紅、みずほ銀行、三井物産、三菱商事)にのぼっています。

このように「走近日企・感受日本」事業は、中国日本商会の会員企業の多大なる協力と貢献のもとに実施されています。また、共催団体である中国日本友好協会にも全面的な協力をいただくとともに、訪日団の受け入れや本報告書の編集には、一般財団法人日中経済協会に多大なるご尽力をいただいております。加えて、寄付金の管理は、中国側では中国友好和平発展基金会、日本側では公益社団法人企業市民協議会(CBCC)にご協力をいただいております。改めて、本事業実施にご支援、ご尽力をいただいたすべての関係者に厚くお礼を申し上げます。

本事業が日中相互の国民レベルでの理解促進の一助となり、将来さらに大きな実を結ぶことになれば、これに勝る喜びはありません。

中国日本商会 会長 田中一紹

2015年12月